



COMMANDER Lite Ver. 1.15

ユーザーマニュアル

2024年5月

Rev. 2.0

目次

1	COMMANDER Lite のインストール方法.....	2
1.1	インストーラダウンロード.....	2
1.2	インストール.....	2
2	COMMANDer Lite の操作方法.....	4
2.1	立上げ.....	4
2.2	ホーム画面.....	5
2.3	ステータス画面.....	7
2.3.1	詳細情報.....	9
2.3.2	設定.....	10
2.4	操作画面.....	13
2.4.1	映像.....	13
2.4.2	ビデオウォール.....	14
2.4.3	マルチビュー.....	14
2.4.4	音声.....	15
2.4.5	USB.....	16
2.4.6	赤外線.....	17
2.4.7	RS-232.....	18
2.4.8	RS-232 コマンド.....	19
2.4.9	プリセット.....	20
2.5	ビデオウォール.....	22
2.5.1	ビデオウォールデータ作成.....	23
2.5.2	ビデオウォールデータ読み込み.....	27
2.5.3	ビデオウォール操作.....	28
2.6	マルチビュー.....	29
2.6.1	マルチビューデータ作成.....	30
2.6.2	マルチビューデータ読み込み.....	31
2.6.3	マルチビュー操作.....	32
2.7	基本設定画面.....	34
2.8	リモート接続画面.....	35

1 COMMANDER Lite のインストール方法

1.1 インストーラダウンロード

インストーラは下記サイトよりダウンロードして下さい。

<https://canare.jp/cdn/download/>

なお、ダウンロードする際にはユーザ登録が必要になりますので、未登録の方は下記サイトより事前に登録をお願いいたします。

<https://canare.jp/cdn/support/>

1.2 インストール

1. インストーラファイル「COMMANDER Lite-1.15.7 Setup.exe」をダブルクリックします。

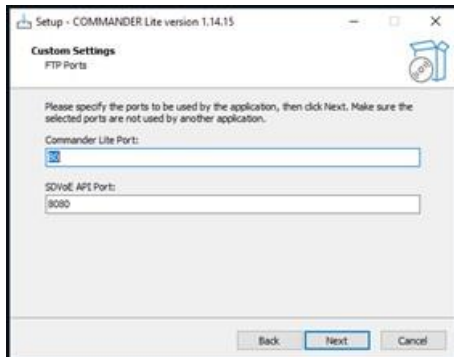
※ 以下のようなダイアログが表示された場合には、「詳細情報」をクリックした後に表示される「実行」ボタンをクリックして下さい。



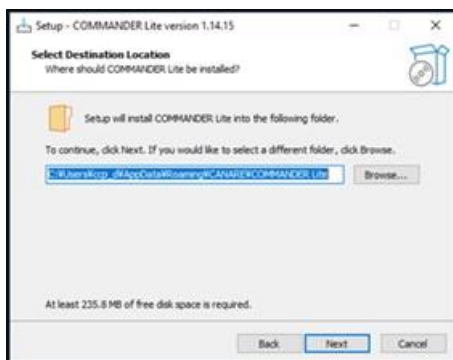
2. 指示にしたがいインストールを進めます。



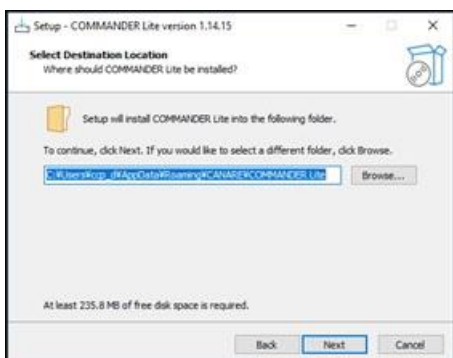
License Agreement に同意いただき、「I accept the agreement」を選択、「Next」をクリック



「Commander Lite Port」 「SDVoE API Port」 に
それぞれ 80、8080 を入力し、「Next」 をクリック



インストールフォルダを選択し、「Next」 をクリック



「Install」 をクリック

「Complete the COMMANDER Lite Setup Wizard」 が表
示されたら 「Finish」 をクリック

2 COMMANDer Lite の操作方法

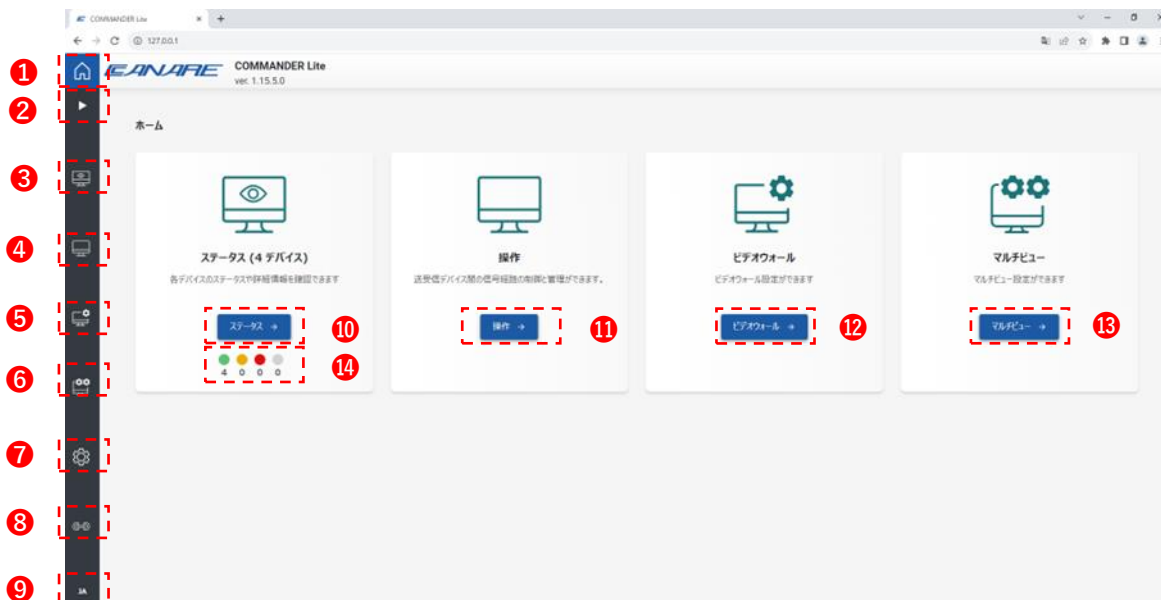
2.1 立上げ

COMMANDER Lite を立上げるには、COMMANDER Lite がインストールされた PC でブラウザを起動し、アドレスバーにその PC の IP アドレス、または”127.0.0.1”、あるいは”localhost”を入力します。

インストール後、初めて立上げた場合にのみライセンス契約が表示されますので、内容に同意の上、ACCEPT ボタンをクリックして下さい。

2.2 ホーム画面

COMMANDER Lite を立上げると下記画面が表示されます。



- ① ホーム画面へ
- ② ピクトグラム表示展開（次ページ図参照）
- ③⑩ ステータス画面へ
- ④⑪ 操作画面へ
- ⑤⑫ ビデオウォール設定画面へ
- ⑥⑬ マルチビュー設定画面へ
- ⑦ 基本設定画面へ
- ⑧ リモート接続画面へ
- ⑨ 言語選択
- ⑭ デバイス状態表示

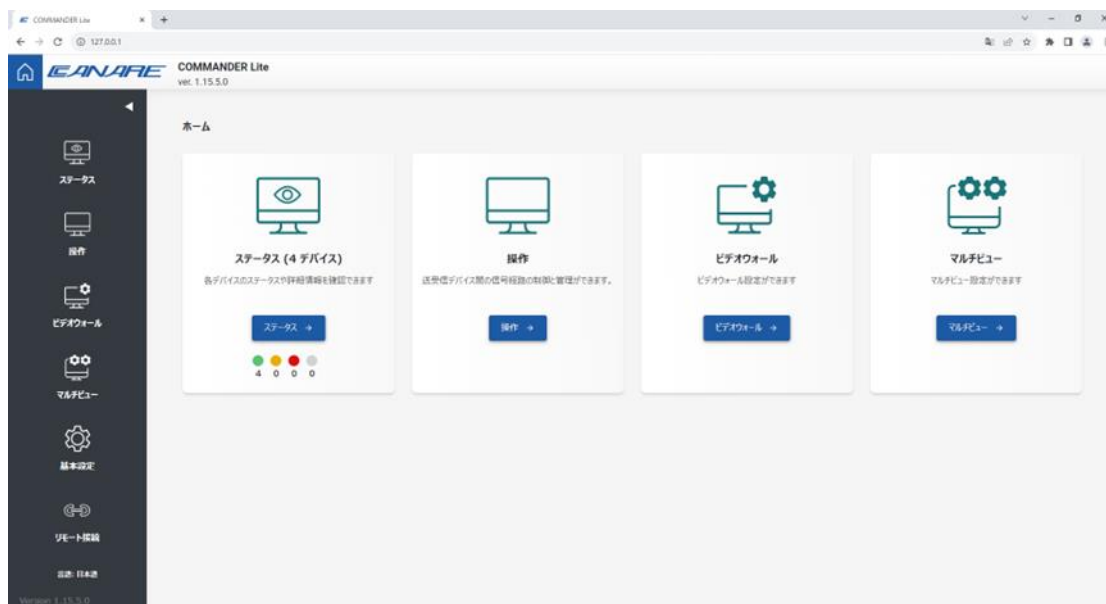
緑 … 正常に HDMI 伝送されている送受信デバイス台数

黄 … 接続は正常だが、HDMI 信号を送受信していない送受信デバイス台数

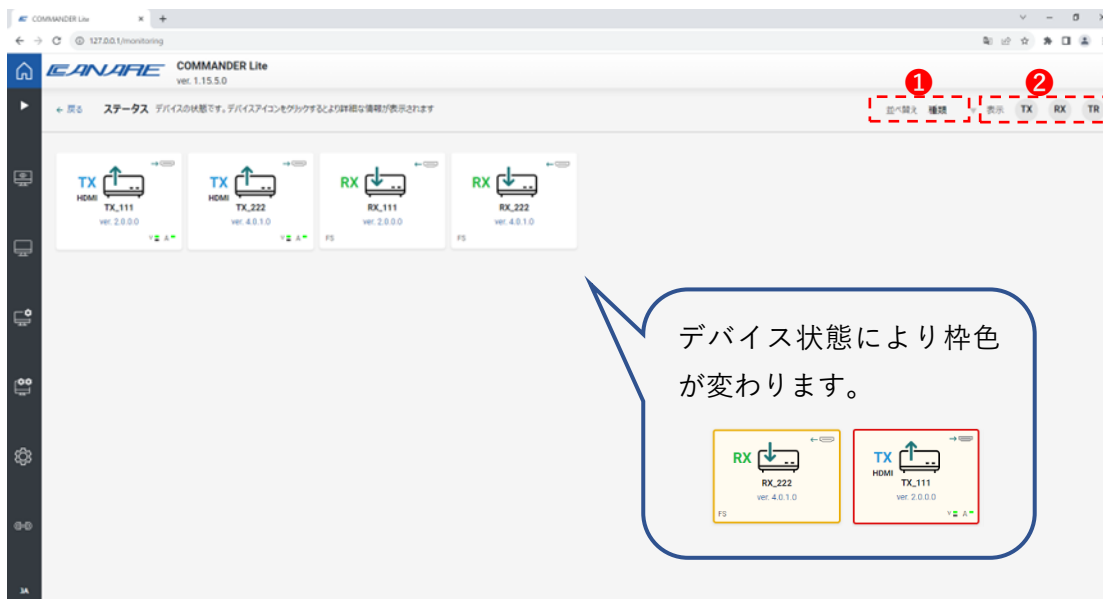
赤 … HDMI 機器と接続されていない送受信デバイス台数

灰 … 当初認識されていたが途中で認識されなくなった送受信デバイス台数

「ピクトグラム表示展開」 ボタンをクリックしますと下記のような表示になります。

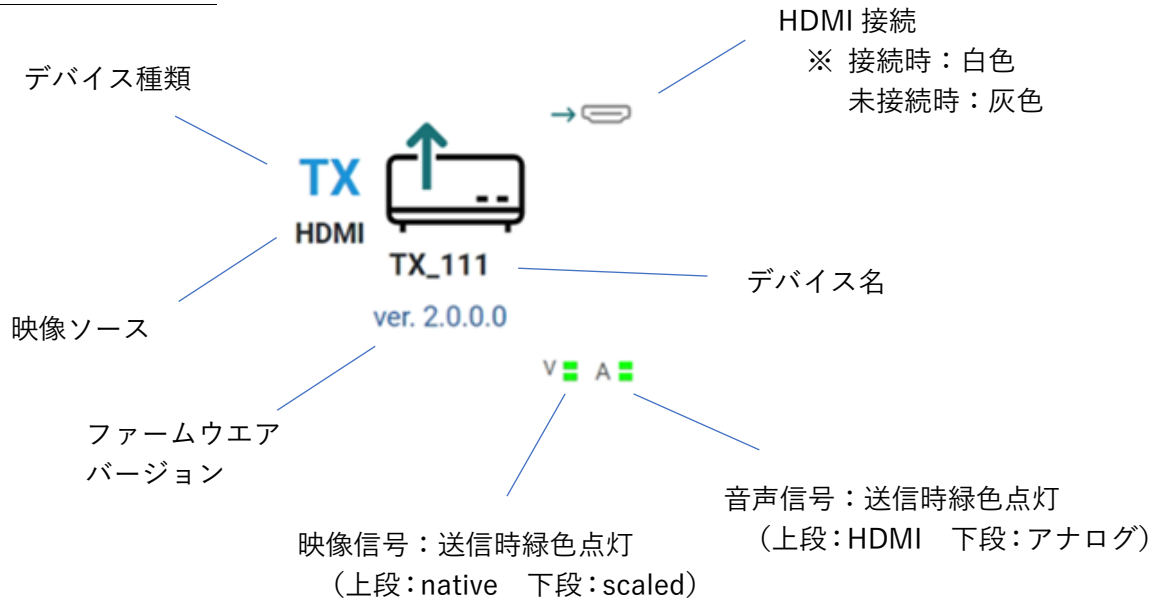


2.3 ステータス画面

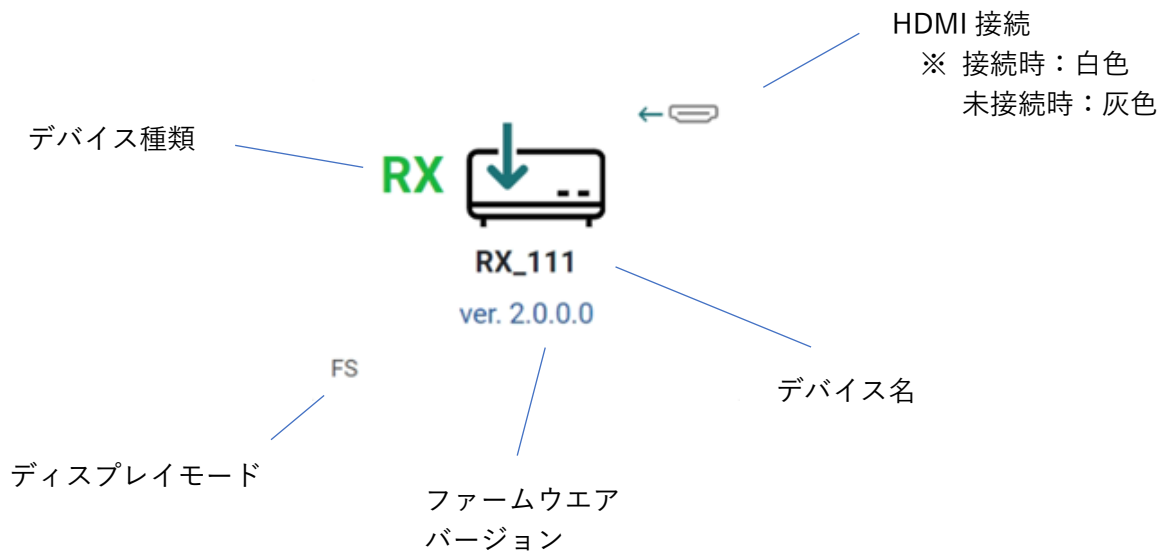


- ① デバイスの「種類」、「状態」、「名前」による並べ替え
※ デバイス状態は 2.2 節⑭ 緑、黄、赤、灰の順となります。
- ② 表示デバイス選択
TX：送信機を表示
RX：受信器を表示
TR：送受信両機能をもったデバイスを表示

【デバイスアイコン説明 (TX)】

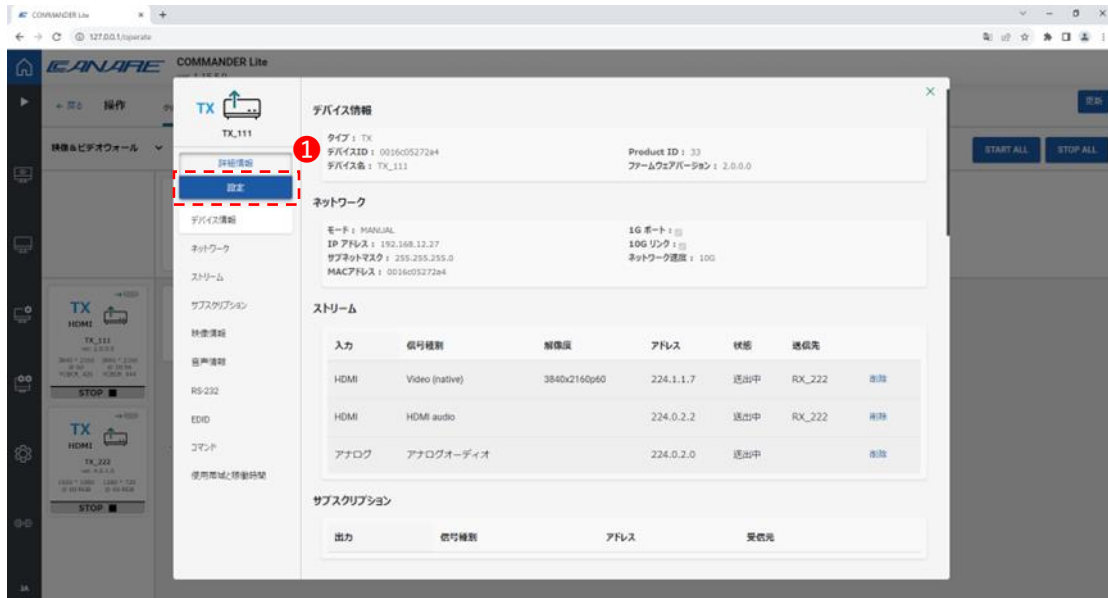


【デバイスアイコン説明 (RX)】



2.3.1 詳細情報

デバイスアイコンをクリックしますと、各デバイスの詳細情報が表示されます。

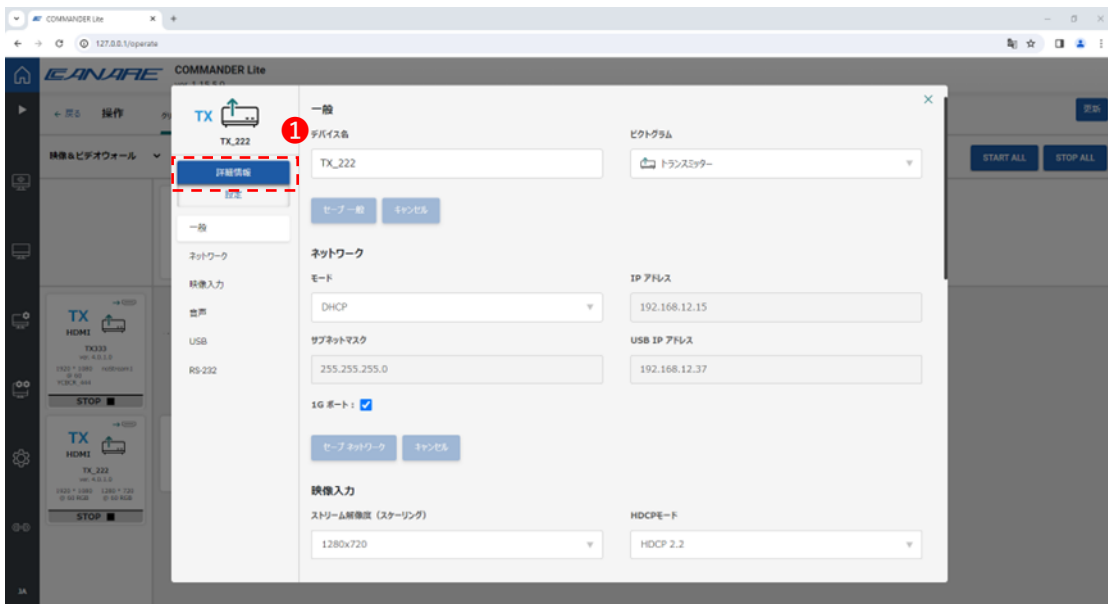


① デバイス設定画面へ

表示項目は以下の内容になります。

- ・デバイス情報 … 基本情報
- ・ネットワーク … ネットワークの設定状況
- ・ストリーム … 送信データの状況
- ・サブスクリプション … 受信データの状況
- ・映像情報 … 映像の詳細情報
- ・音声情報 … 音声の詳細情報
- ・RS-232 … RS-232 ポートの設定状況
- ・EDID … TX：送信デバイスに設定されている EDID 情報
… RX：受信デバイスに接続されている HDMI 機器の EDID 情報
- ・コマンド … 「再起動」ボタンを押すとデバイスは再起動します
- ・使用帯域と稼働時間 … 使用帯域と稼働時間の状況（機種依存機能）

2.3.2 設定



① デバイス詳細情報画面へ

設定項目は以下の内容になります。

◆ TX 設定

【一般】

- ・デバイス名 : 任意の名称に変更可能です（英数字のみ）
- ・ピクトグラム : プルダウンメニューから選択可能です

【ネットワーク】

- ・モード : DHCP または固定アドレスの選択が可能です
- ・IP アドレス : モードで固定アドレスを選択した場合に設定します
- ・サブネットマスク : モードで固定アドレスを選択した場合に設定します
- ・USB IP アドレス : モードで固定アドレスを選択した場合に設定します
- ・速度 : Auto/10G/5G/2.5G から選択できます（機種依存機能）
- ・1G ポート : 1G ポートを使用する場合にチェックします（機種依存機能）

【映像入力】

- ・ソース : HDMI か USB Type-C かを選択します (機種依存機能)
- ・ストリーム解像度 (スケーリング) : プルダウンメニューから選択可能です
- ・HDCP モード : プルダウンメニューから選択可能です
- ・圧縮バージョン : 「Version 2」での使用を推奨します
映像が 4K60 の場合は伝送帯域抑制のため軽圧縮を行います
送信先 RX の解凍バージョン設定と合わせる必要があります
(機種依存機能)
- ・フレームレート変換 (native) : 伝送帯域抑制のためにフレームレートを 1/2 にします (機種依存機能)
- ・デコーダ EDID : TX の EDID データを RX に接続された HDMI 機器 (モニタ等) の EDID データに書き換えることが可能です
コピーする HDMI 機器が接続された RX を選択し、「コピー」をクリックし、セーブして下さい

【音声】

- ・アナログ音声入出力 : 入力か出力かを選択します
RX デバイスへ伝送する場合は「入力」、TX デバイスに入力された HDMI 音声を出力する場合は「出力」を選択します
- ・アナログ出力ソース : 上記にて「出力」を選択した場合にソースを表示します

【USB】

- ・USB ルーティングする場合には「USB」「USB-HID」とも「Local」に設定して下さい。

【RS-232】

- ・通信速度 : 2400/4800/9600/19200/38400/57600/76800/115200 から選択できます
- ・データビット : 6/7/8 から選択できます
- ・ストップビット : 1/2 から選択できます
- ・パリティ : None/奇数/偶数から選択できます

◆ RX 設定

【一般】

- ・デバイス名 : 任意の名称に変更可能です (英数字のみ)
- ・ピクトグラム : プルダウンメニューから選択可能です

【ネットワーク】

- ・モード : DHCP または固定アドレスの選択が可能です
- ・IP アドレス : モードで固定アドレスを選択した場合に設定します
- ・サブネットマスク : モードで固定アドレスを選択した場合に設定します
- ・USB IP アドレス : モードで固定アドレスを選択した場合に設定します
- ・速度 : Auto/10G/5G/2.5G から選択できます (機種依存機能)
- ・1G ポート : 1G ポートを使用する場合にチェックします (機種依存機能)

【映像出力】

- ・ HDCP サポートレベル : 特別な場合を除いて「シンク機器準拠 2.2」でご使用下さい
HDCP の互換性に問題がある場合に設定を変えることで改善される場合があります
- ・ ディスプレイモード : プルダウンメニューから選択可能です
- ・ VIC : 「ディスプレイモード」にて「Genlock」以外を選択した場合に
プルダウンメニューから解像度、フレームレートを選択します
- ・ 解凍バージョン : 「Version 2」での使用を推奨します
映像が 4K60 の場合は伝送帯域抑制のため軽圧縮を行います
送信元 TX の圧縮バージョン設定と合わせる必要があります

【音声】

- ・ HDMI 音声出力ソース
 - … HDMI (映像追従) : 映像に付随している音声を出力します
この設定の場合は音声のマトリクス設定は無効になります
 - … HDMI : 映像経路とは独立して音声経路を選択することができます
 - … HDMI ダウンミックス : HDMI マルチチャンネル音声を 2 チャンネルにダウンミックスして出力します
 - … アナログ : アナログ音声を出力します
- ・ アナログ出力ソース : HDMI 音声かアナログ音声かを選択することができます

【USB】

- ・ USB ルーティングする場合には「USB」「USB-HID」とも「Remote」に設定して下さい。

【RS-232】

- ・ 通信速度 : 2400/4800/9600/19200/38400/57600/76800/115200 から選択できます
- ・ データビット : 6/7/8 から選択できます
- ・ ストップビット : 1/2 から選択できます
- ・ パリティ : None/奇数/偶数から選択できます

2.4 操作画面

2.4.1 映像

伝送信号選択プルダウンメニュー①から「映像&ビデオウォール」を選択後、TX、RXの交差する格子点をクリックすることで、映像伝送経路を設定します。

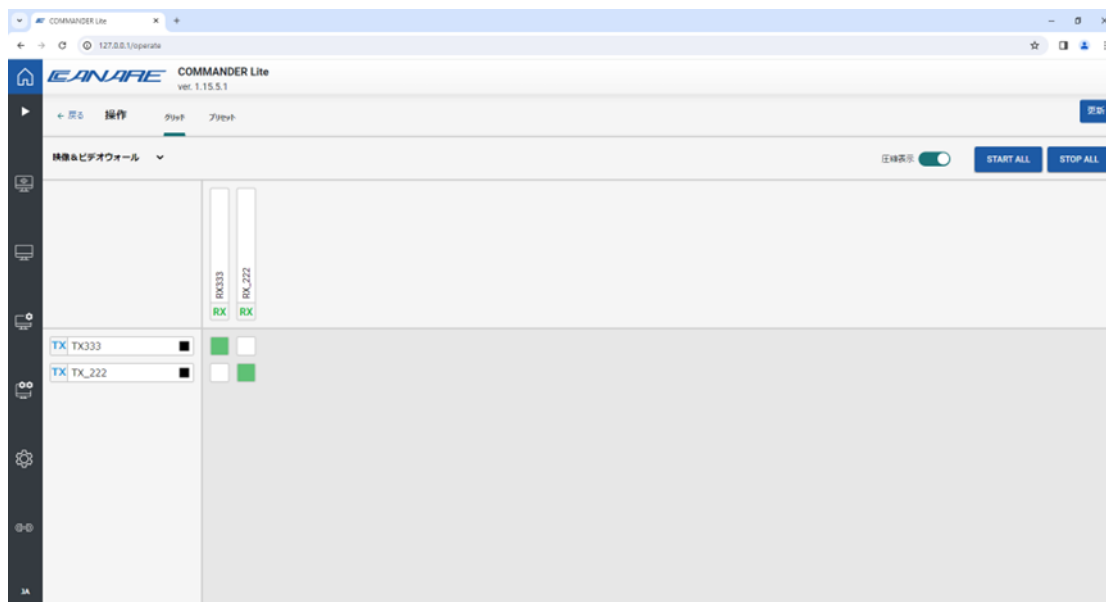
下記の例では、赤矢印、青矢印の2経路がそれぞれ接続された状態になります。



- ① 伝送信号選択プルダウンメニュー
- ② マトリクス圧縮表示（次ページ図参照）
- ③ すべての送信器からの信号をオン
- ④ すべての送信器からの信号をオフ
- ⑤ 接続状態を更新

「マトリクス圧縮表示」ボタンをクリックしますと下記のような表示になります。

※ マトリクス圧縮表示機能は、「マルチビュー」「音声」「USB」「赤外線」「RS-232」「RS-232
コマンド」を選択した場合にも有効です。



2.4.2 ビデオウォール

ビデオウォールについては、2.5 章をご参照下さい。

2.4.3 マルチビュー

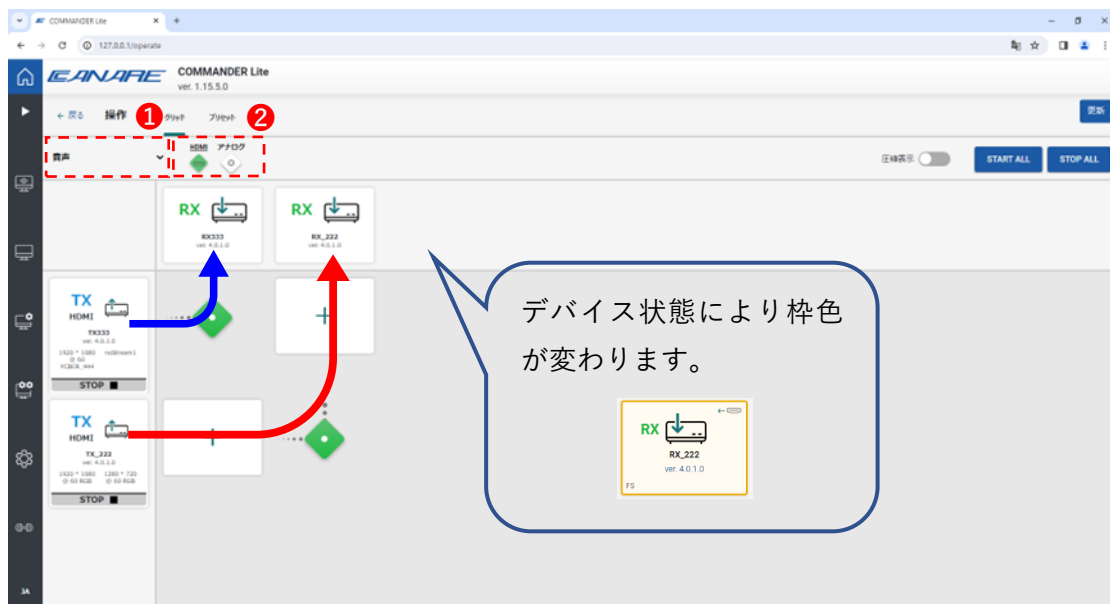
マルチビューについては、2.6 章をご参照下さい。

2.4.4 音声

伝送信号選択プルダウンメニュー①から「音声」を選択後、TX、RXの交差する格子点をクリックすることで、伝送経路を設定します。

音声種別はHDMI音声、アナログ音声の中から選択でき(②)、それぞれの伝送経路を設定することができます。

下記の例では、HDMI音声について、赤矢印、青矢印の2経路がそれぞれ接続された状態になります。



- ① 伝送信号選択プルダウンメニュー
- ② 音声種別選択

2.4.5 USB

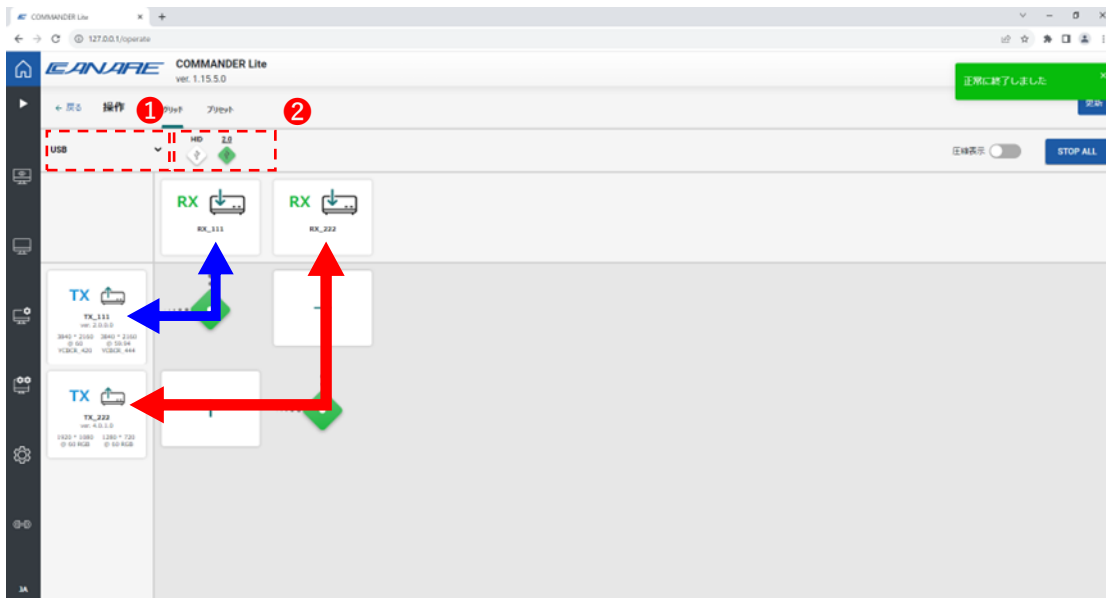
伝送信号選択プルダウンメニュー①から「USB」を選択します。

2.3.2 節にて Local 設定、Remote 設定したデバイスカードがそれぞれ左側、上側に配列されます。デバイスが交差する格子点をクリックすることで、伝送経路を設定します。

USB タイプは HID または 2.0 から選択でき、伝送ルートは個別に設定できます。

下記の例では、USB 2.0 について、赤矢印、青矢印の 2 経路がそれぞれ接続された状態になります。

※ USB デバイスを接続しないとクロスマークが表示されない場合があります。



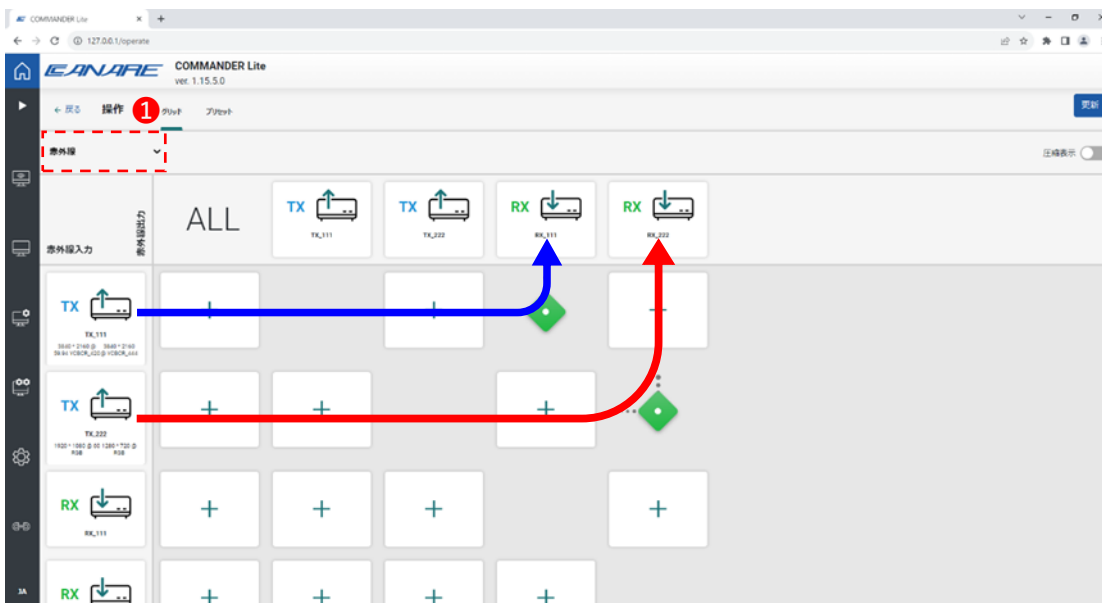
- ① 伝送信号選択プルダウンメニュー
- ② USB 種別選択

2.4.6 赤外線

伝送信号選択プルダウンメニュー①から「赤外線」を選択後、TX、RX の交差する格子点をクリックすることで、伝送経路を設定します。

下記の例では、赤矢印、青矢印の2経路がそれぞれ接続された状態になります。

「ALL」の列にある格子点をクリックした場合には、他のすべてのデバイスに赤外線信号が伝送されます。



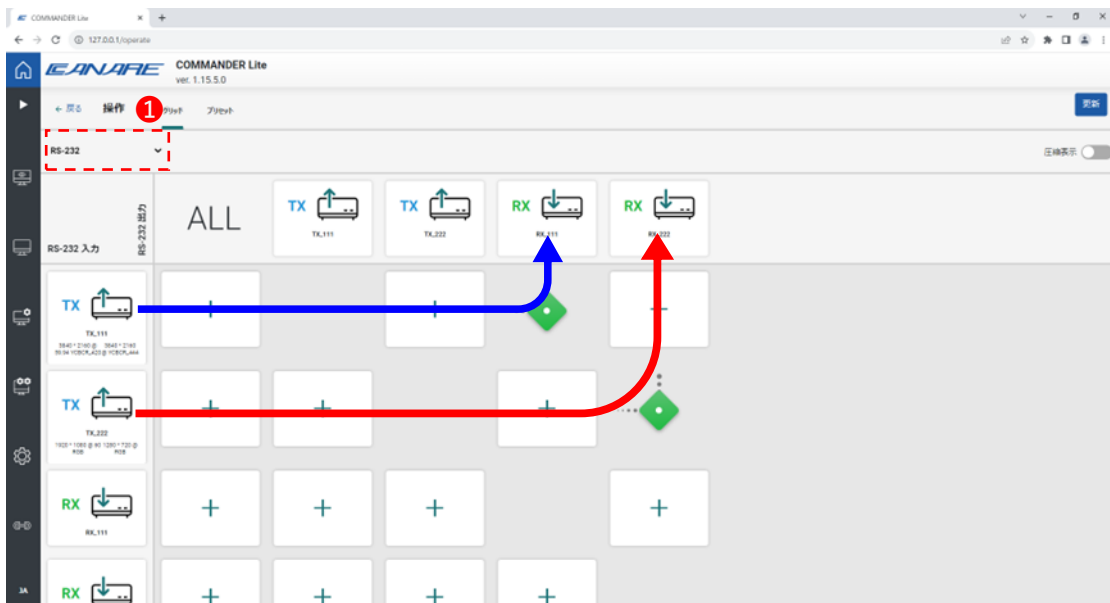
① 伝送信号選択プルダウンメニュー

2.4.7 RS-232

伝送信号選択プルダウンメニュー①から「RS-232」を選択後、TX、RX の交差する格子点をクリックすることで、伝送経路を設定します。

下記の例では、赤矢印、青矢印の2経路がそれぞれ接続された状態になります。

「ALL」の列にある格子点をクリックした場合には、他のすべてのデバイスに RS-232 信号が伝送されます。

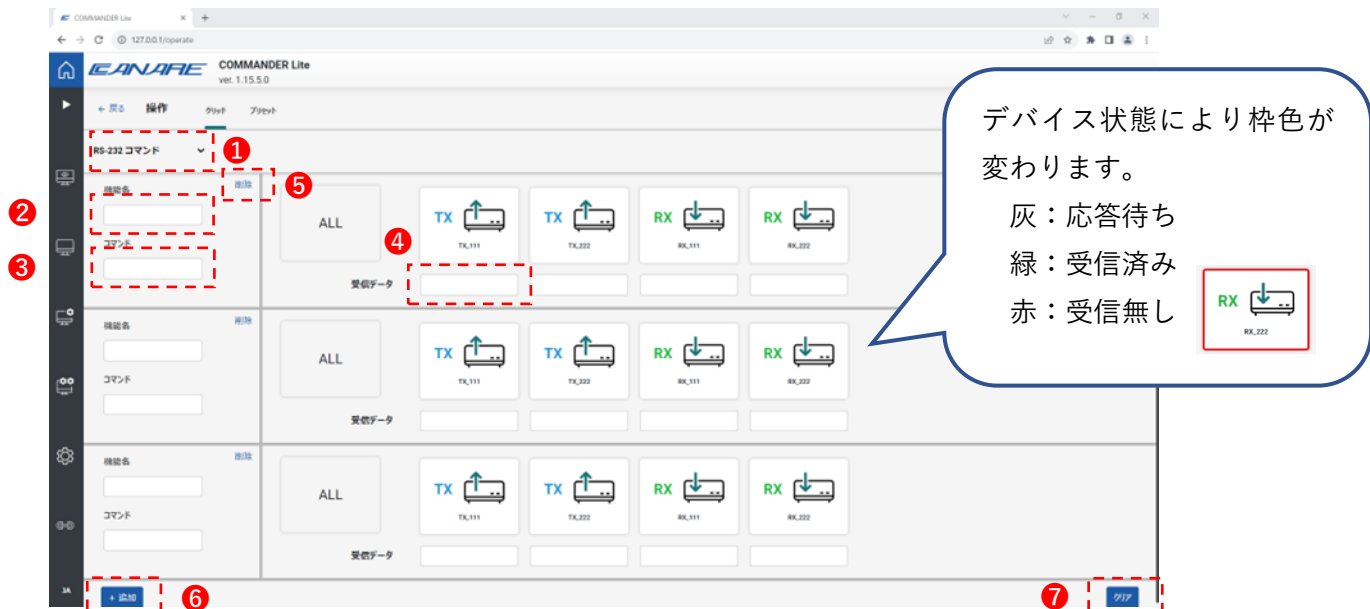


① 伝送信号選択プルダウンメニュー

2.4.8 RS-232 コマンド

伝送信号選択プルダウンメニュー①から「RS-232 コマンド」を選択します。

②「機能名」、③「コマンド」を入力後、伝送したいデバイスのアイコンをクリックすることによりコマンドが伝送され、その後、④「受信データ」欄に伝送されたデバイスからの受信データが表示されます。



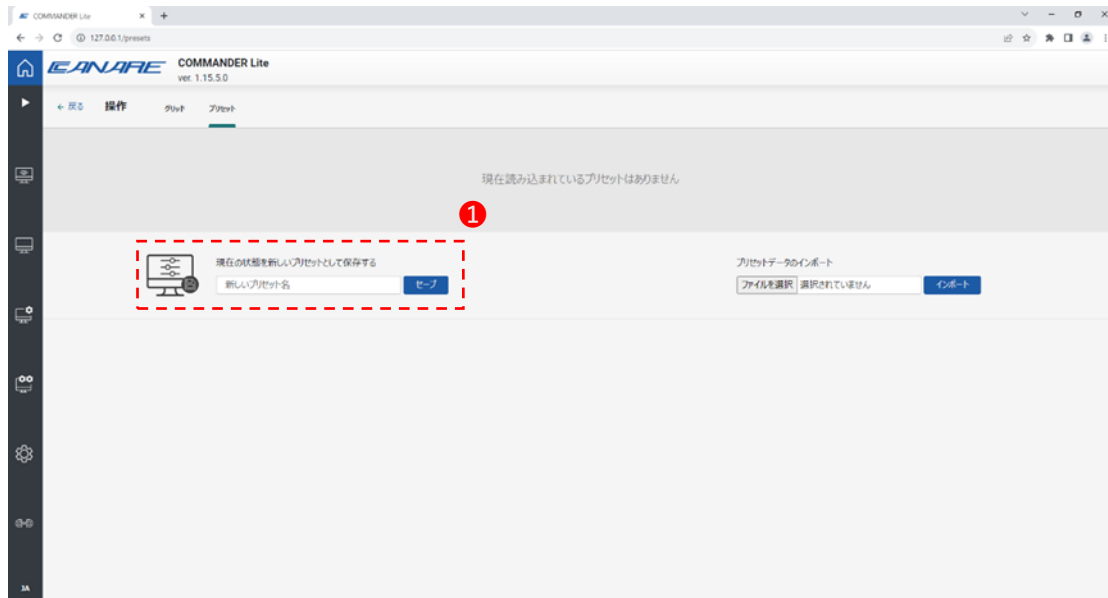
- ① 伝送信号選択プルダウンメニュー
- ② 機能名称 : コメント欄ですので、特に入力しなくても問題ありません
- ③ コマンド : RS-232 で伝送するデータを入力します (ASCII コード)
- ④ 受信データ : 送信された相手から返送されたデータが表示されます
- ⑤ 行を削除
- ⑥ 行を追加
- ⑦ 画面を初期化

※ 受信データは接続されている機器により異なりますので、詳細については機器の仕様をご確認下さい。

※ 応答待ちの状態別のデバイスにコマンド送信を行うとレスポンス無しになることがあります。

2.4.9 プリセット

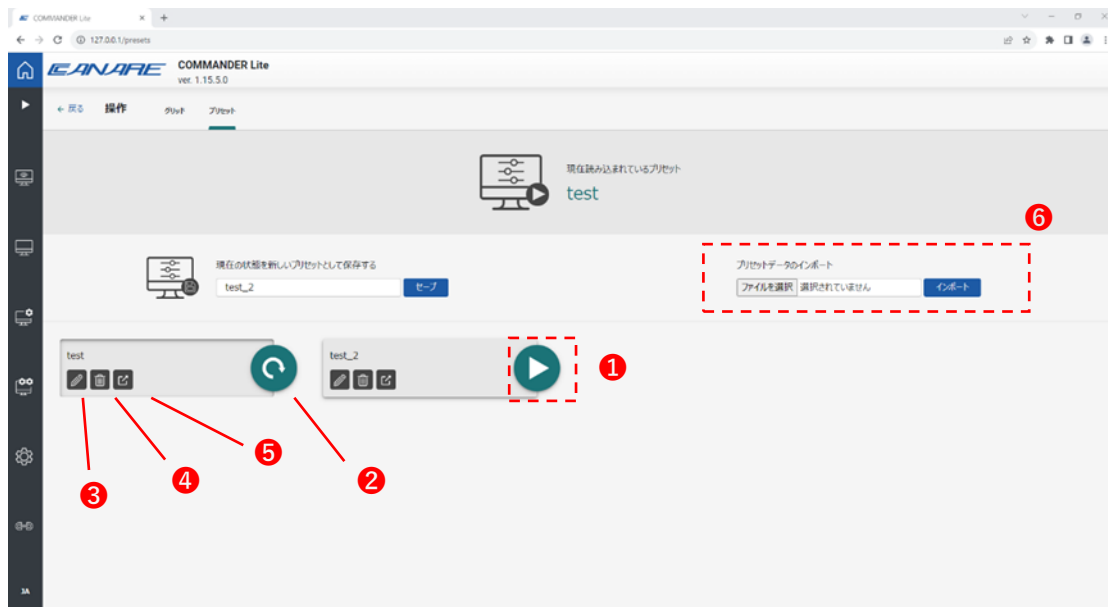
プリセット名を入力し、「セーブ」ボタンをクリックすることで、現在の伝送経路状態を保存することができます (①)。



① プリセット名入力、保存

下図は保存されている2つのプリセットのうち「test」というプリセットが選択されて読み込まれた状態です。ボタン①をクリックすることにより、保存済みの別のプリセット状態にすることができます。

また、ボタン⑤をクリックすることで、任意のフォルダにプリセットファイルをエクスポートすることができます。また、エクスポートされたプリセット状態をインポートする際には⑥を使用します。

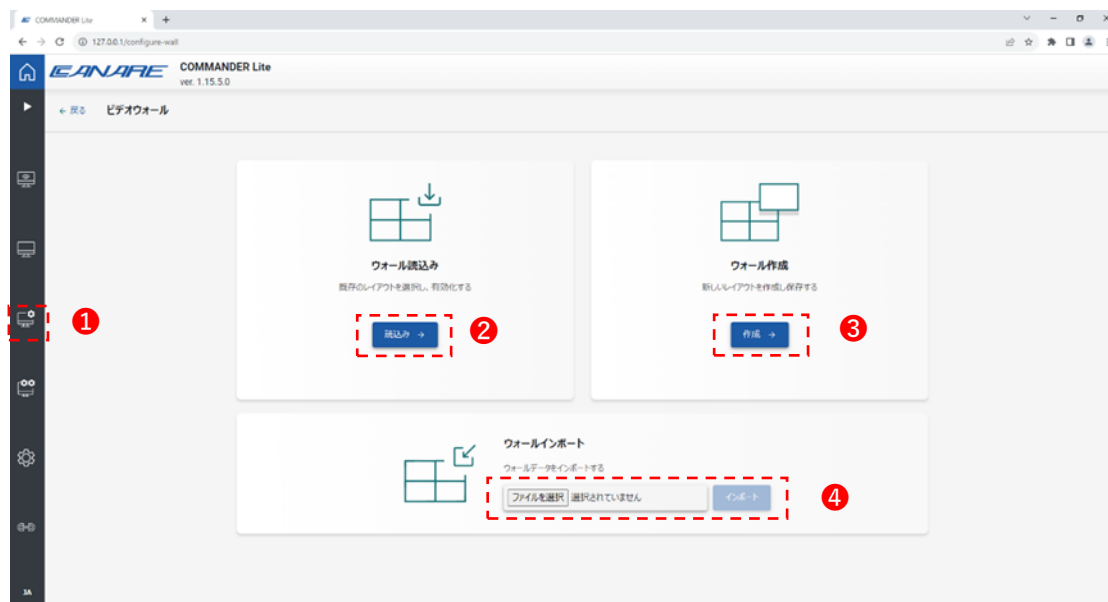


- ① プリセット読み出し
- ② 現在読み込まれているプリセット
- ③ プリセット名変更
- ④ プリセット削除
- ⑤ エクスポート
- ⑥ インポート

2.5 ビデオウォール

ビデオウォールピクトグラム①をクリックしますとビデオウォール初期画面が表示されます。

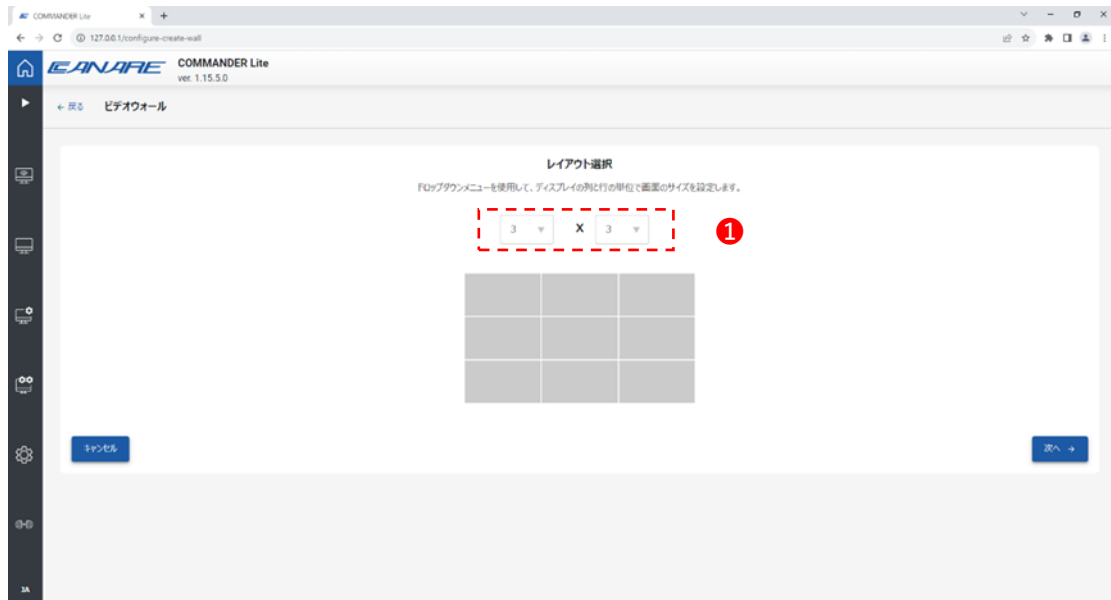
この画面では、ビデオウォールデータの作成、読み込み、任意のフォルダへのインポートを行うことができます。



- ① ビデオウォール初期画面表示
- ② データ読み込み
- ③ データ作成
- ④ データインポート

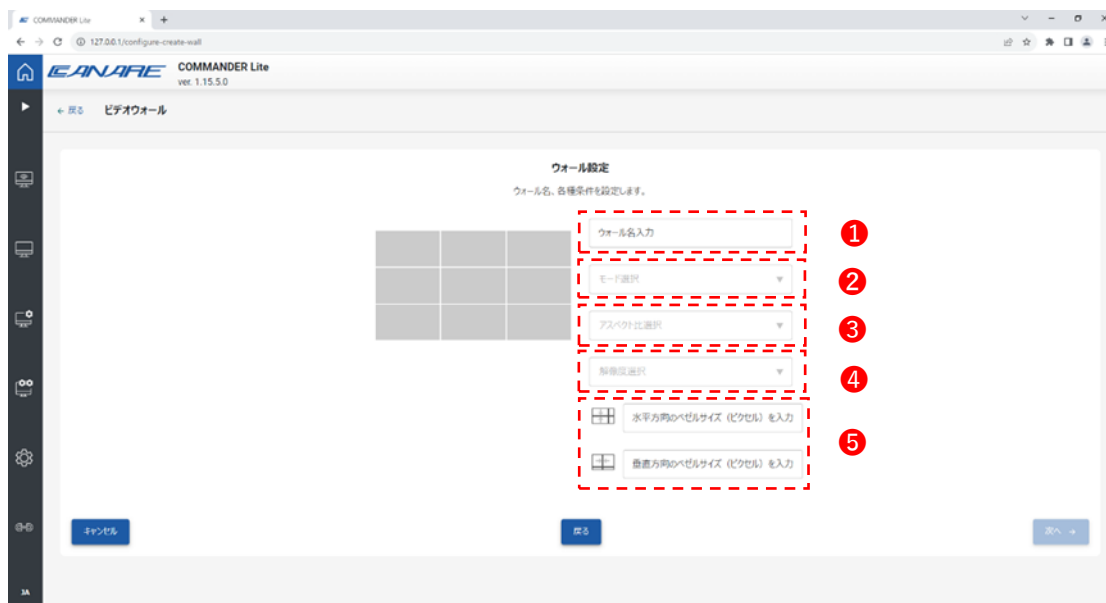
2.5.1 ビデオウォールデータ作成

- 1) 前ページのビデオウォール初期画面内の「作成」ボタンをクリックします。
- 2) 画面サイズを指定します。



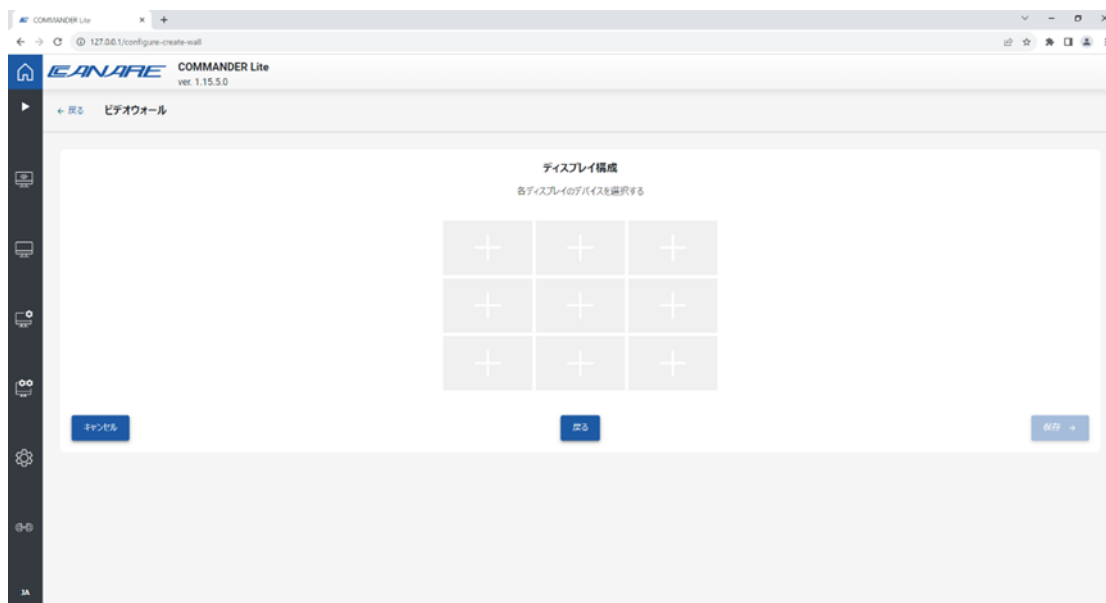
- ① ウォールサイズ指定

3) ウォール名、水平及び垂直方向のベゼルサイズをそれぞれ入力します。また、プルダウンメニューから、ウォールモード、アスペクト比、解像度をそれぞれ選択します。

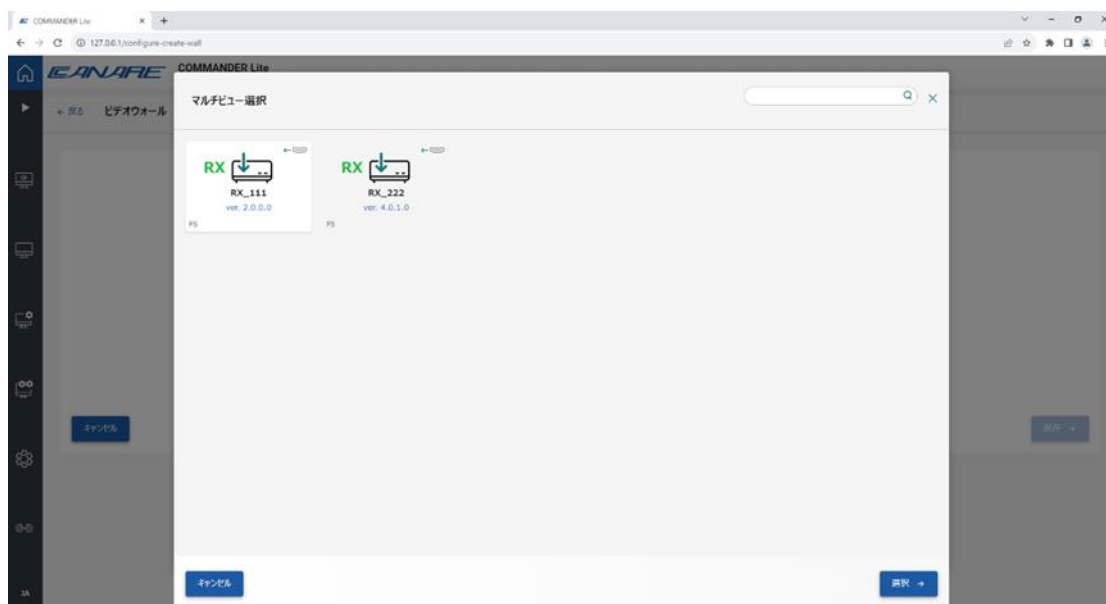


- ① ウォール名入力
- ② ウォールモード選択
- ③ アスペクト比選択
- ④ 解像度選択
- ⑤ ベゼルサイズ入力

4) ディスプレイ配置図内の「+」をクリックします。



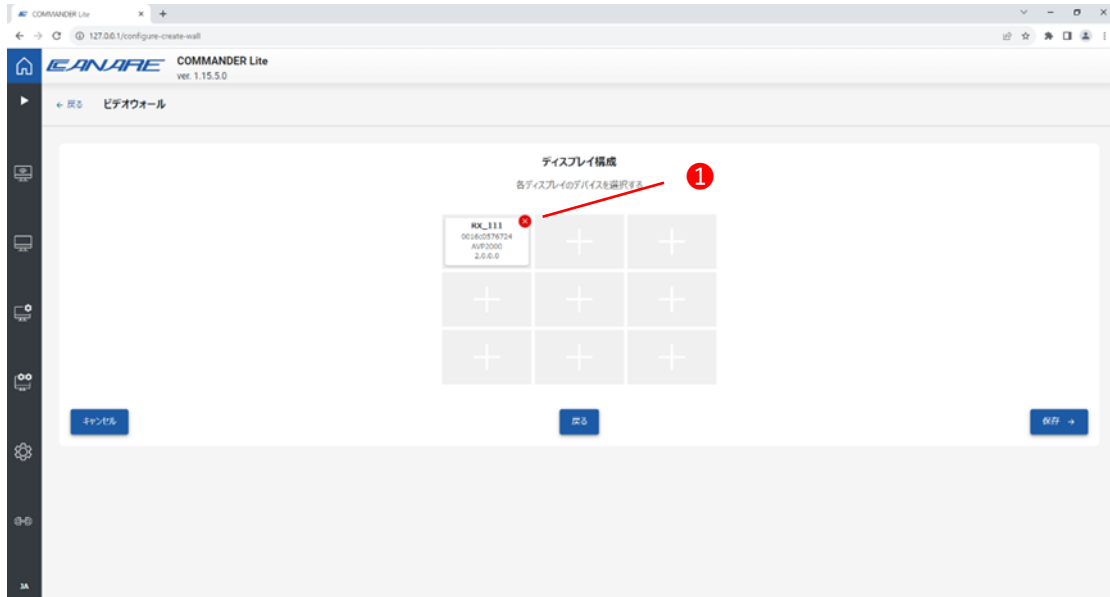
5) 選択した位置に配置したい Rx をリストから選択します。



6) 選択後は下図のように RX が配置されます。

各ディスプレイについて4) 5) を実施した後、「保存」ボタンをクリックしますとデータが保存されます。

※ 選択解除ボタンをクリックしますと再選択が可能な状態になります。



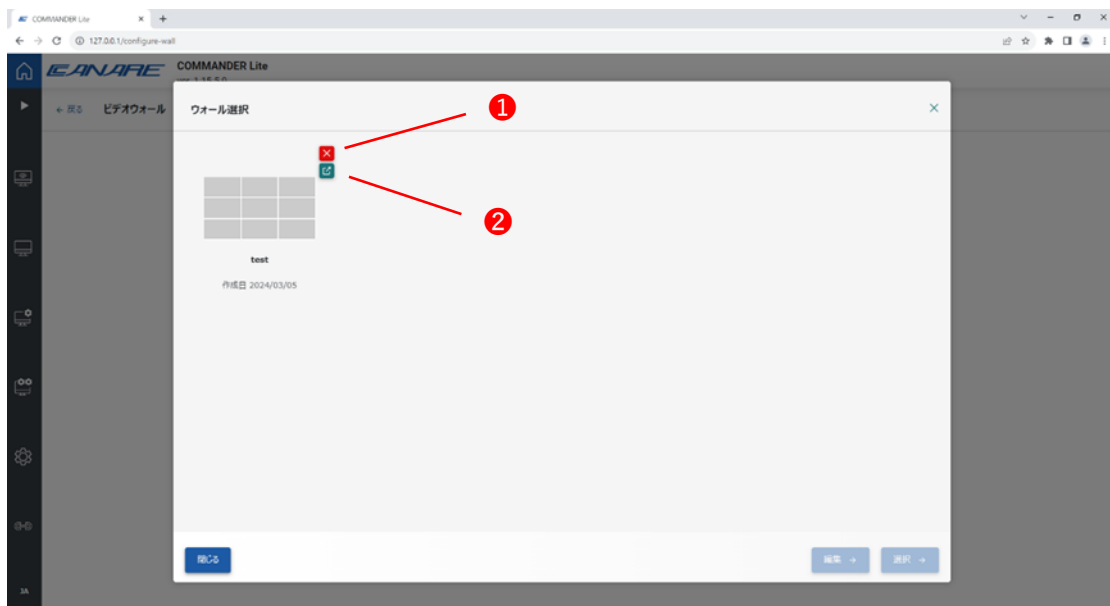
① 選択解除

2.5.2 ビデオウォールデータ読み込み

- 1) ビデオウォール初期画面内の「読み込み」ボタンをクリックします。
- 2) 「ウォール選択」画面より読み込みたいデータを選択し、「選択」ボタンをクリックします。

※ データ選択後「編集」ボタンをクリックしますと、内容を編集することができます。
編集時にはデータ作成時と同じ設定画面が表示されますので、2.5.1 節を参考に行ってください。

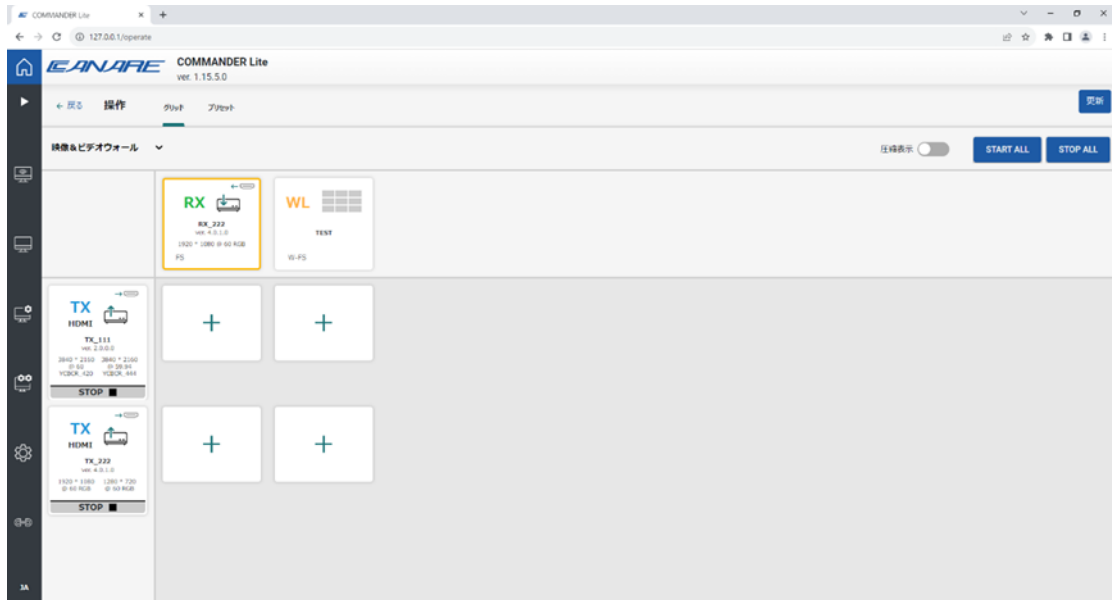
※ ビデオウォールデータのエクスポートはこの画面で行います。インポートについては、ビデオウォール初期画面にて行えます。



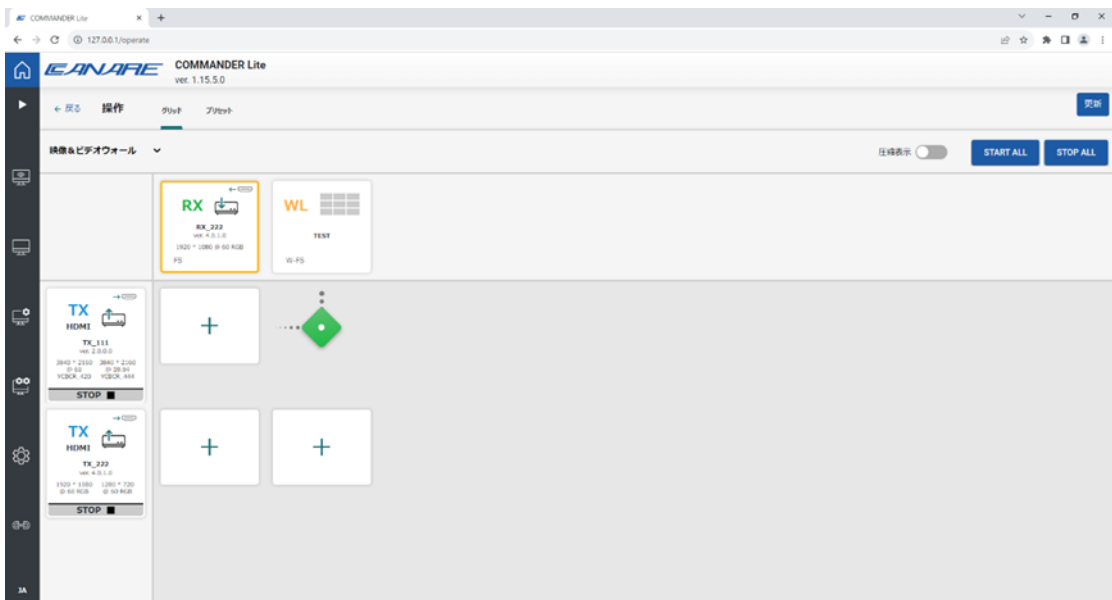
- ① データ削除
- ② データエクスポート

2.5.3 ビデオウォール操作

- 1) 2.5.2 節を参考にビデオウォールデータの読み込みを行います。
- 2) 「操作」画面の伝送信号選択プルダウンメニュー①から「映像&ビデオウォール」を選択しますと、RX 表示欄に「WL」と表示されたアイコンが表示されます。



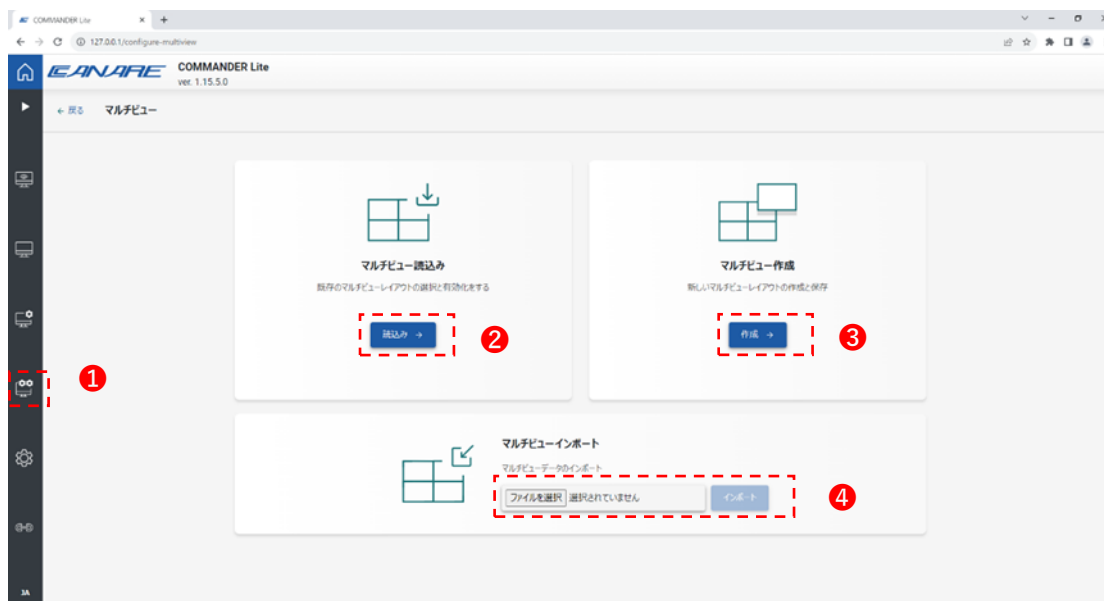
- 3) 伝送したいTX-WL が交差する格子点をクリックします。



2.6 マルチビュー

マルチビューピクトグラム①をクリックしますとマルチビュー初期画面が表示されます。

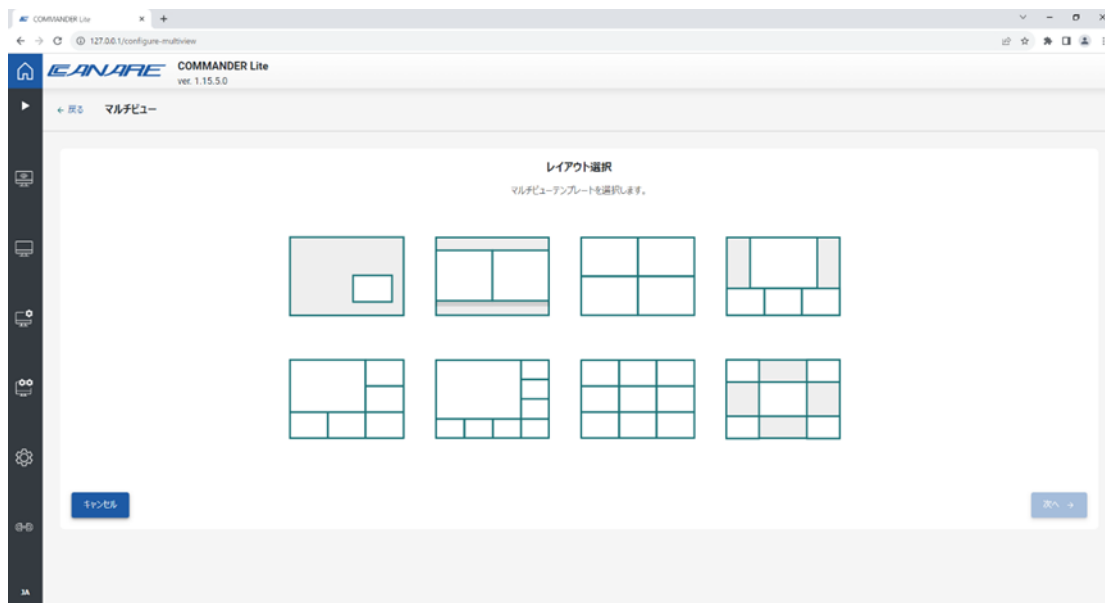
この画面では、マルチビューデータの作成、読み込み、任意のフォルダへのインポートを行うことができます。



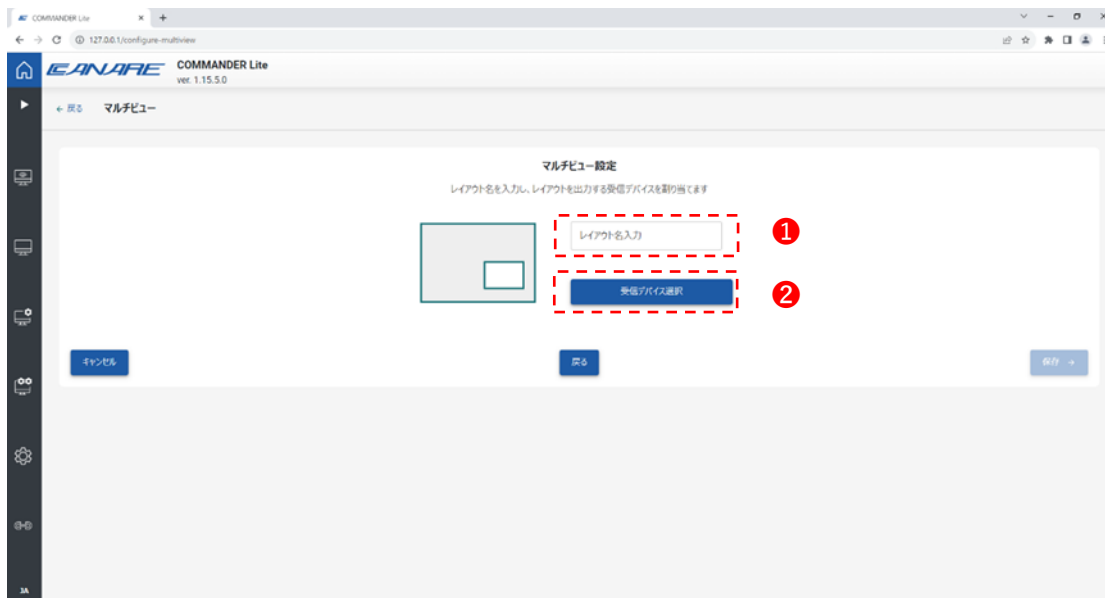
- ① マルチビュー初期画面表示
- ② データ読み込み
- ③ データ作成
- ④ データインポート

2.6.1 マルチビューデータ作成

- 1) 前ページのマルチビュー初期画面内の「作成」ボタンをクリックします。
- 2) 画面レイアウトを選択します。



- 3) レイアウト名を入力し、RX を選択します。
「保存」ボタンをクリックしますとデータが保存されます。



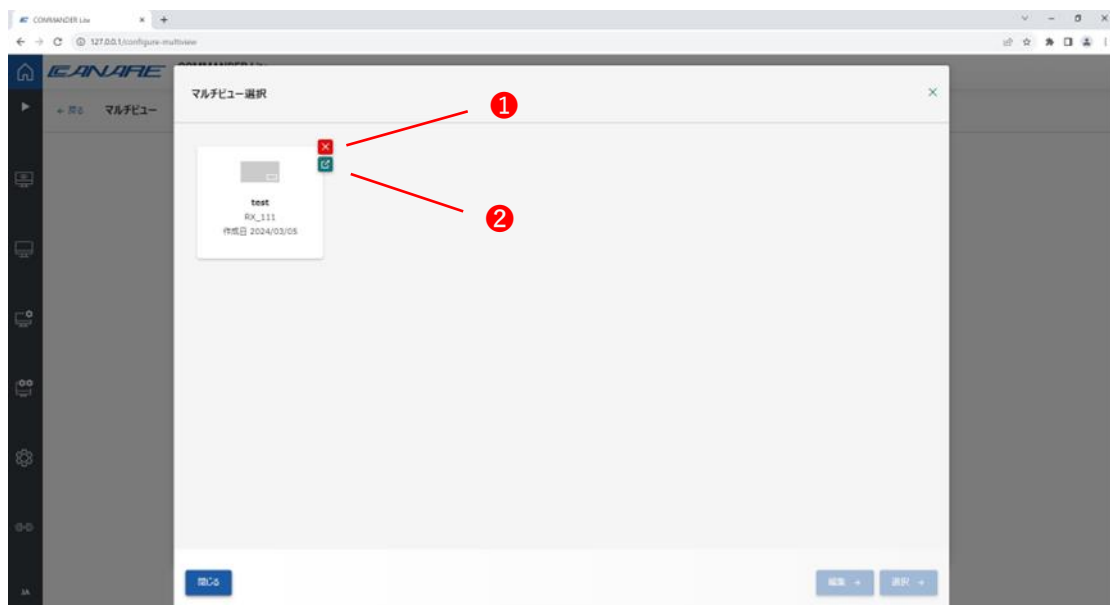
- ① レイアウト名入力
- ② RX 選択

2.6.2 マルチビューデータ読み込み

- 1) マルチビュー初期画面内の「読み込み」ボタンをクリックします。
- 2) 「マルチビュー選択」画面より読み込みたいデータを選択します。

※ データ選択後「編集」ボタンをクリックしますと、内容を編集することができます。
編集時にはデータ作成時と同じ設定画面が表示されますので、2.6.1 節を参考に行ってください。

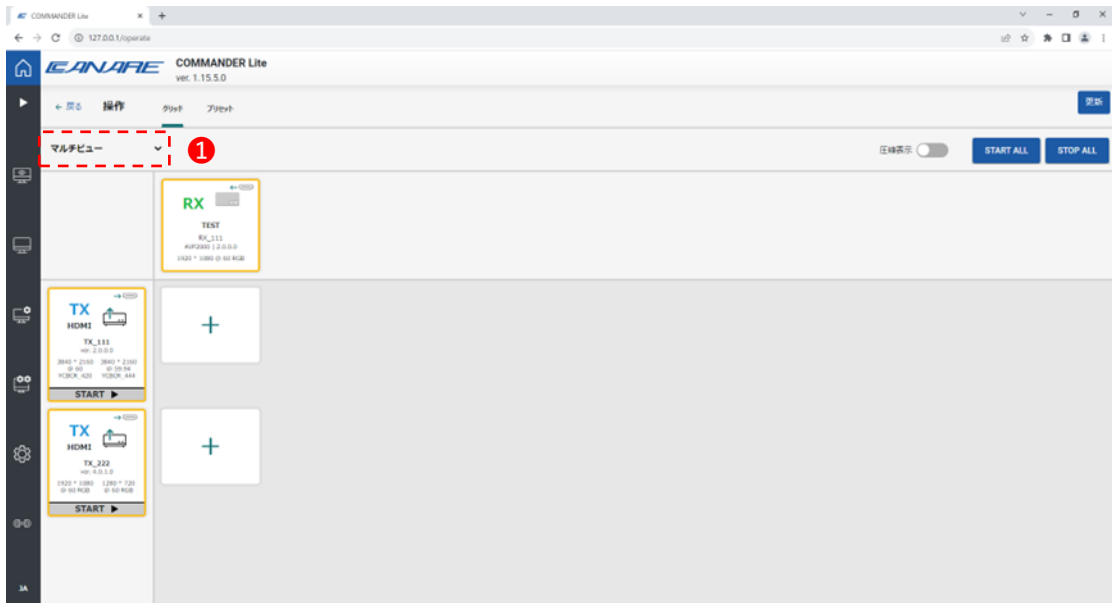
※ マルチビューデータのエクスポートはこの画面で行います。インポートについては、マルチビュー初期画面にて行えます。



- ① データ削除
- ② データエクスポート

2.6.3 マルチビュー操作

- 1) 2.6.2 節を参考にマルチビューデータの読み込みを行います。
- 2) 「操作」画面の伝送信号選択プルダウンメニュー①から「マルチビュー」を選択しますと、RX 表示欄にマルチビューデータ内で指定したデバイスが表示されます。
- 3) TX-RX 間の伝送経路上にあたる「+」ボタンをクリックします。

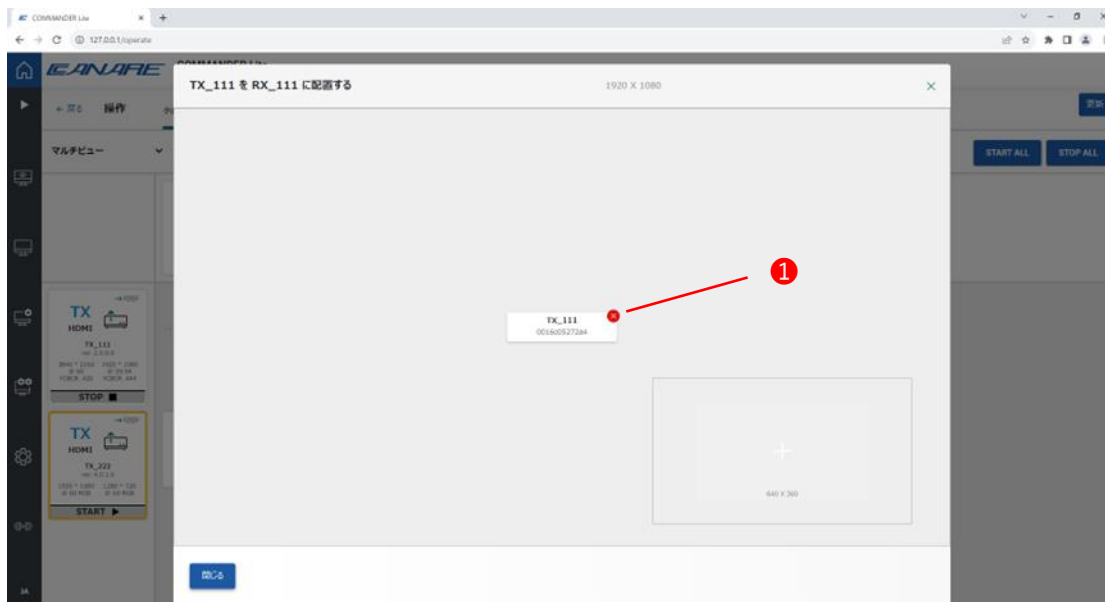


- 4) ソースとして選択した TX を表示させたい領域の「+」ボタンをクリックします。



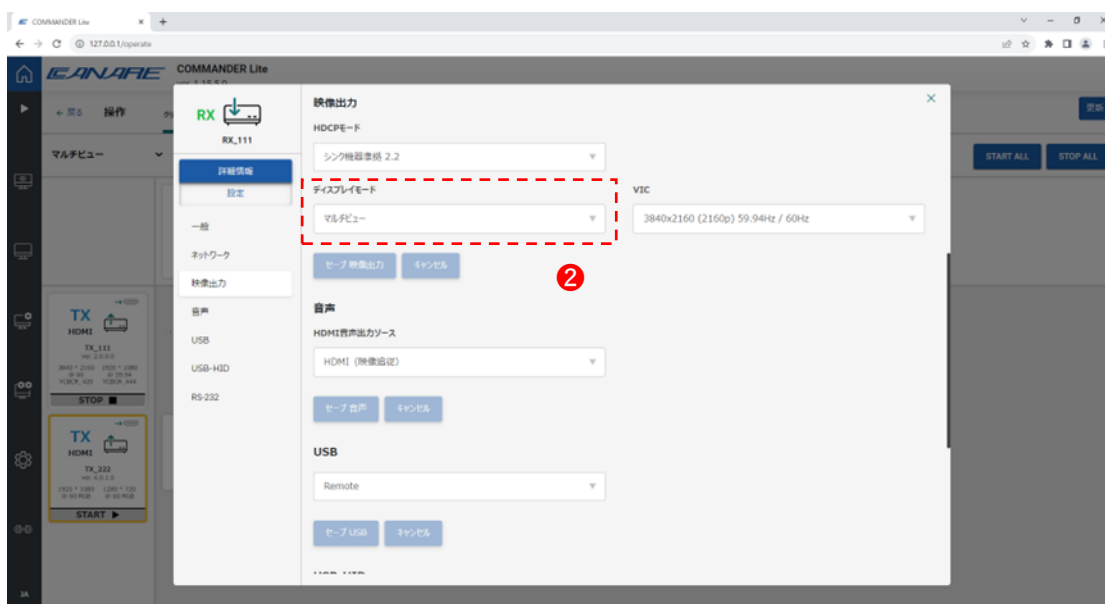
- 4) 下図のように選択した領域にデバイス名が表示されレイアウトが確定されます。
各TXについて3) 4) を実施します。

※ 選択解除ボタンをクリックしますと再選択が可能な状態になります。

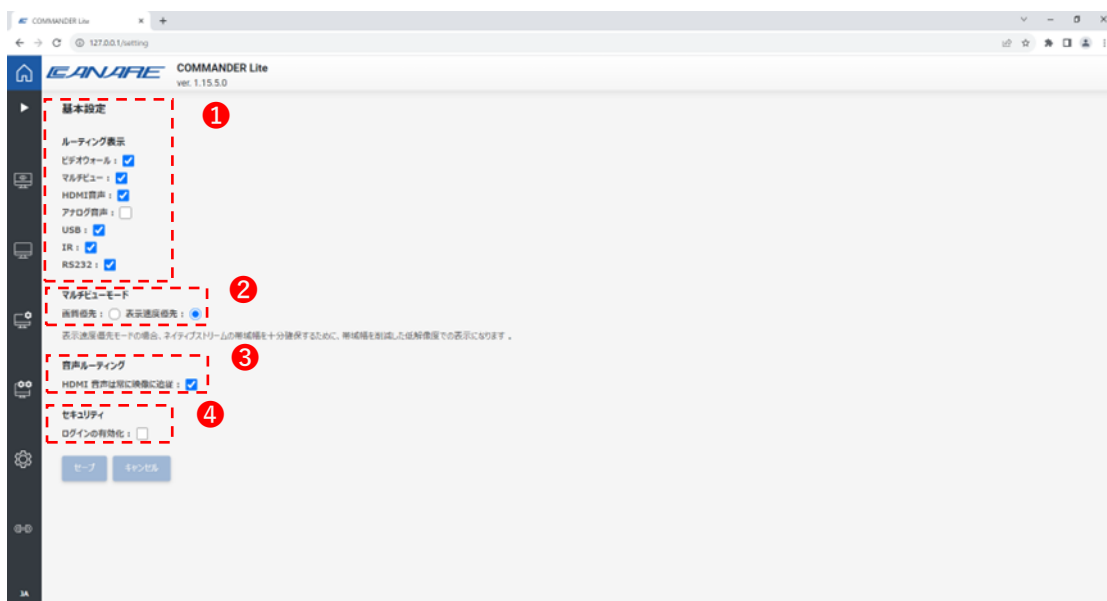


① 選択解除

※) マルチビュー表示を行う場合には、RX のディスプレイモード設定②が「マルチビュー」となります。マルチビュー表示終了後、この設定を変更しないと通常のマトリクス表示が正常に機能しませんのでご注意ください。



2.7 基本設定画面



① 基本設定

… 表示したいルーティングを選択します。選択されなかった項目については、ウインドウ左端のピクトグラム表示、デバイスの「詳細情報」「設定」画面（2.3節参照）が非表示になります。

② マルチビューモード

… ラジオボタンで選択します。

③ 音声ルーティング

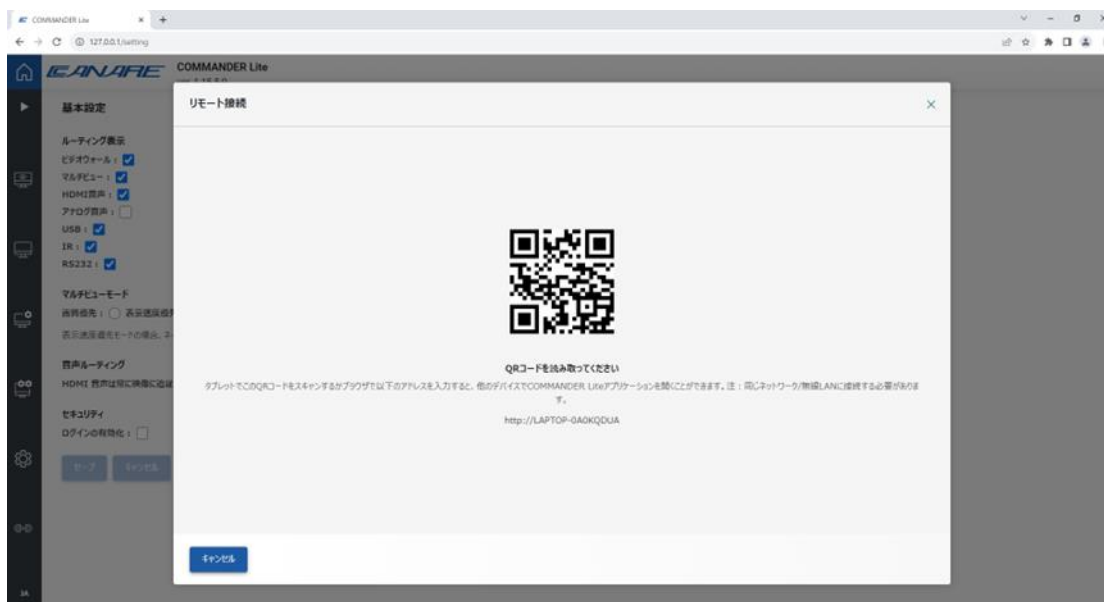
… チェックした場合、音声は映像と同じ伝送経路に自動的に設定されます。

④ セキュリティ

… チェックした場合、「ユーザ名」「パスワード」が設定でき、COMMANDER Lite 立上げ時にログイン画面が表示されます。

2.8 リモート接続画面

COMMANDER Lite がインストールされた PC と同じ LAN に接続された別の PC、タブレット、スマートフォンを使用して COMMANDER Lite を使用することができます。



仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

カナレ電気株式会社

URL <https://www.canare.co.jp/>